



一般社団法人 電波産業会
Association of Radio
Industries and Businesses

No.897 2013年9月9日

ARIBからのお知らせ

第113回電波利用懇話会開催のお知らせ
「アンゴラ及び南部アフリカ諸国でのテレビ放送の現状と展望について」

当会のデジタル放送普及活動作業班（DiBEG: Digital Broadcasting Experts Group）では、我が国で開発された地上デジタルテレビ放送方式（ISDB-T）の海外普及のため、関係省庁等と連携しつつ、現地セミナーへの専門家の派遣や試験放送への支援などの働きかけを継続的に行ってきました。2006年にブラジルで最初にISDB-T方式が採用されて以来、ほかの中南米各国等も次々とISDB-T方式の採用を決定し、現在海外14カ国に普及しています。

2013年2月には、アフリカにおいて初となるボツワナが、ISDB-T方式の採用を決定しています。ボツワナの北西に位置するアンゴラとの間では、2011年2月、ISDB-T方式の採用に向けた取り組み推進のため、両国政府間で情報通信技術分野における協力に関する覚書が締結され、その後、専門家の派遣、セミナーの開催、試験放送の実施支援等が行われています。

アンゴラ及び南部アフリカ諸国でのISDB-T方式採用に向けた支援のため、独立行政法人国際協力機構（JICA）を通じてアンゴラに派遣されていた松岡専門家が本年8月に1年間の任務を終え帰国されました。

今回の電波利用懇話会では、現地の放送事情に詳しい松岡様をお迎えして、下記によりアンゴラ及び南部アフリカ諸国でのテレビ放送の現状と展望についてご講演をいただきます。

会員の皆様には、是非ともご参加下さいますようお願い申し上げます。

記

- 1 日時 : 平成25年9月20日（金）午後4時から5時30分まで
- 2 場所 : 一般社団法人電波産業会 会議室
東京都千代田区霞が関1-4-1日土地ビル11階 TEL: 03-5510-8592
- 3 題名 : 「アンゴラ及び南部アフリカ諸国でのテレビ放送の現状と展望について」
- 4 講師 : 日本放送協会 札幌放送局技術部 チーフ・エンジニア 松岡 準志 様
- 5 対象 : ARIB正会員及び賛助会員
- 6 参加者 : 60名程度（定員になり次第締め切らせていただきます。）
- 7 申込先 : 当会ホームページ (<http://www.arib.or.jp/>) の「講演会等開催案内」まで
- 8 参加費 : 無料
- 9 問合せ先 : 企画国際部 電波利用懇話会事務局 佐藤 まで
TEL: 03-5510-8592 E-mail: arib-seminar2013@arib.or.jp

ホンジュラス共和国における「地上デジタルテレビ国際フォーラム」について

中米のホンジュラス共和国（以下、ホンジュラス）は、地上デジタルTV方式として2007年に一度アメリカ方式（ATSC）の導入を決定していますが、昨今の中南米諸国の日伯方式（ISDB-T）の導入やホンジュラス特有の山がちな地形での放送方式の有効性などの観点から、本年より方式の見直しについて検討を始めています。その一環として、ホンジュラス政府主催で8月26日及び27日の2日間、「地上デジタルテレビ国際フォーラム」と題して、同国内の関係者を対象としたISDB-Tに関する講演会及び関連機器の展示会が、首都テグシガルパにおいて開催されました。

開会式では、CONATEL（国家電気通信委員会）のカルドナ委員長の挨拶の後、加来日本大使から、東日本大震災において電気、携帯電話がダウンしている状況でも情報源としてワンセグが有効だったこと等を紹介する挨拶があり、また、既にISDB-Tを採用しているブラジル、アルゼンチンから、ブラジル大使館代表及びロベルトアルゼンチン大使の挨拶がありました。

講演では、ISDB-T標準とその技術についてのセッションで、総務省国際経済課の高地課長から総務省のISDB-T国際普及への取り組み、また坂本係長からスペイン語でISDB-Tの特長や利点など概要の紹介がありました。続いてISDB-T移行プロセスのセッションでは、コスタリカ派遣の吉見JICA専門家から「地デジ導入の技術的プロセス」と題した講演、ISDB-T標準の実装プロセスのセッションでは、当会の藤本研究開発本部次長・村上主任研究員からARIB/DiBEGの活動紹介及び緊急警報放送システム（EWBS）の概要説明並びにそのデモ、さらに東日本大震災時のNHK放送のビデオ紹介を行いました。その他、ISDB-Tを採用しているブラジルとアルゼンチンから、両国の状況などが報告されました。



左からアルゼンチン大使、カルドナ委員長、加来大使、ブラジル代表 総務省国際経済課 高地課長 吉見JICA専門家（コスタリカ）

関連機器の展示会では、日本から日立国際電気（送信機、カメラ）、マスプロ電気（ギャップファイラー、エリアワンセグ）、リーダー電子（測定器）、NEC（送信機）、ソニー（TVスタジオ機器）、ARIB/DiBEG（EWBS）、日本大使館（4Kテレビ）が出展しました。

講演会の閉会式において、CONATELのカルドナ委員長は、委員会の3人の幹部を従え、ISDB-T採用に向けた手続きを開始する旨力説した後、総務省高地課長と固い握手を交わされていました。本年5月末にISDB-Tを採用した中米のグアテマラ共和国に続いての採用が期待されます。



ARIB/DiBEG ブース
(EWBS の展示デモ)



ISDB-T 採用に向けて・・・”
と力説するカルドナ委員長



(左)カルドナ委員長 (右)高地課長

APT WRC 準備会合 第 2 回会合 (APG15-2) の概要

第 2 回 APT WRC 準備会合 (APG15-2) が開催されました。

- 1 日 程： 2013 年 7 月 1 日 (月) ～5 日 (金)
- 2 場 所： タイ バンコク
- 3 出席者：

21 カ国、約 300 名が参加 (日本は、総務省国際周波数政策室 山口室長を団長に 32 名が参加。ARIB からは佐藤常務理事他 2 名が参加。)
- 4 会合の目的：

APG15 は、2015 年世界無線通信会議 (WRC-15) に向けて、APT としての対応を検討することを所掌としている。議長は A. Jamieson 氏 (ニュージーランド)、副議長は K.-J. Wee 氏 (韓国)、K. Arasteh 氏 (イラン) である。
- 5 会合構成： (敬称略)

APG Working Party (WP)	割り当て議題	WP 議長
WP1: 移動とアマチュア業務	1.1、1.2、1.3、1.4	Kyung-Mee Kim (韓国)
WP2: 科学業務	1.11、1.12、1.13、1.14	Zhu Keer (中国)
WP3: 航空、海上および無線標 定業務	1.5、1.15、1.16、1.17、1.18	Neil Meaney (豪)
WP4: 固定、移動衛星業務	1.6、1.7、1.8、1.9.1、1.9.2、1.10	Gao Xiaoyang (中国)
WP5: 衛星手続き、局長報告課 題	7、9.1.1、9.1.2、9.1.3、9.1.5、9.1.8、 9.3	Muneo Abe (日本)
WP6: 新議題、決議の見直し等	2、4、8、9.1.4、9.1.6、9.1.7、10	Taghi Shafiee (イラン)

- 6 主要結果：
 - ・ WRC-15 議題 1.1 (IMT 用追加周波数の特定) に関して、各国から提案があった候補周波数、候補とすべきでない周波数の一覧を表の形でまとめた。
 - ・ 現在第三地域では日本を含む 9 ケ国で IMT に特定されている 698-790MHz を第三地域の他国、あるいは第三地域全体へ特定拡大する Method の CPM Text 案を JTG4-5-6-7 に入力することとした。

7 次回会合のスケジュール：

次回第3回会合は、来年6月9日～13日にオーストラリア、ブリスベンで開催される。

ITU-R WP5D 第16回会合の概要

ITU-R WP5D 第16回会合が開催されました。

1 日程： 2013年7月10日（水）～17日（水）

2 場所： 札幌市（札幌パークホテル）

3 出席者：

34カ国、約190名が参加（日本は、総務省移動通信課 森下企画官を団長に23名が参加。ARIBからは佐藤常務理事他2名が参加。）

4 会合の目的：

WP5DはIMT（IMT-2000とIMT-Advanced）の地上系コンポーネントの更なる研究開発を所掌としている。

5 会合構成：

（敬称略）

グループ名	担当項目	議長
WP5D	ITU-R WP5D 全体	S. BLUST (AT&T) 副議長：K. J. WEE (韓国)、 H. OHLSEN (エリクソン)
WG GEN (GENERAL ASPECTS)	IMT 関連の全般的事項	K. J. WEE (韓国)
WG SPEC (SPECTRUM ASPECTS)	スペクトラム関連	A. JAMIESON (ニュージーランド)
WG TECH (TECHNOLOGY ASPECTS)	無線伝送技術関連	L. SUN (中国)
AH WORKPLAN	WP5D 全体の作業計画等調整	H. OHLSEN (エリクソン)

6 主要結果：

- WRC-15 議題 1.1 (IMT 用追加周波数の特定) に関し、IMT 好適周波数レンジの追加検討を実施し、その結果を JTG 4-5-6-7 に連絡した。
- WRC-15 議題 1.2 (698-806MHz 帯の移動業務への周波数分配) に関し、第1地域の 694-790MHz 帯周波数アレンジメントの新レポート作成に向けた検討を開始した。
- IMT-Advanced の詳細無線インタフェース勧告 M.2012 の第1版に向けた改訂作業を実施し、トランスポーリング組織によるハイパーリンク情報を除き暫定合意。ARIB は、ARIB 規格を参照するハイパーリンク情報を9月18日までに提出する必要がある。
- 将来の IMT の技術トレンドに関する新レポート作成に向けた検討を開始した。

7 次回会合のスケジュール：

次回第17回会合は、今年10月9日～19日にスイス、ジュネーブで開催される。

ITU-R JTG 4-5-6-7 第3回会合の概要

ITU-R JTG4-5-6-7 第3回会合が開催されました。

1 日 程： 2013年7月22日（月）～31日（水）

2 場 所： 南アフリカ イーストロンドン

3 出席者：

42カ国、約270名が参加（日本は、総務省移動通信課 森下企画官を団長に16名が参加。ARIBからは佐藤常務理事他1名が参加。）

4 会合の目的：

ITU-R JTG 4-5-6-7は、2015年世界無線通信会議（WRC-15）の議題1.1「IMT及び他のモバイルブロードバンドの周波数関連事項に関する検討」及び議題1.2「第1地域での694-790MHzにおける移動業務への使用に関する検討」の検討を行うため、衛星業務を扱うSG4、地上業務を扱うSG5、放送業務を扱うSG6及び科学業務を扱うSG7の共同の検討グループとして設立された。

5 会合構成：

（敬称略）

グループ名	担当項目	議 長
JTG		Martin Fenton (英)
WG 1	CPM Text の作成	Cindy Cook (加)
WG 2	SG6(放送業務)に関連する事項の検討	Nigel Laflin (英)
WG 3	SG5(地上業務)に関連する事項の検討	Edward Rocksvold (米)
WG 4	SG4(衛星業務)に関連する事項の検討	Per Hovstad (アジア SAT)
WG 5	SG7(衛星業務)に関連する事項の検討	Alex Vassiliev (露)
Ad Hoc 1	JTG4-5-6-7 の作業計画調整等	John Lewis (韓)
DG Parameters	共用検討におけるパラメータ	Michael Kraemer (独)

6 主要結果：

- ・ WRC-15 議題 1.1 (IMT 用追加周波数の特定) に関する IMT の候補周波数帯に関しては、今会合でも具体的な議論は行わず、提案をまとめた表を入力寄書に基づきアップデートした。
- ・ IMT と放送、衛星、レーダ、科学業務等との共用検討が、本格的に開始された。
- ・ 作業スケジュールとしては、次々回である第5回会合(2014年2月)までに共用検討を完了し、最終回(2014年7月)で CPM Text を完成させることとした

7 次回会合のスケジュール：

次回第4回会合は、今年10月17日～25日にスイス、ジュネーブで開催される。

oneM2M Steering Committee 第 11 回会合の概要

oneM2M Steering Committee (SC) 会合 第 11 回会合が開催されました。

1 日 程： 2013 年 7 月 23 日 (火) ～24 日 (水)

2 場 所： フランス ソフィアアンティボリス (ETSI 本部)

3 出席者：

パートナー・タイプ 1*及びメンバー*より 27 名とオブザーバとして ITU-T 及び Eclipse Foundation が出席。なお、ARIB から登録しているメンバーより、野田 (富士通)、佐藤 (ARIB HoD)、鬼頭 (ARIB) が出席。

*oneM2M の参加資格は、①パートナー・タイプ 1、②パートナー・タイプ 2、③メンバー、④準メンバーの 4 種委員がある。

4 会合の目的：

oneM2M は世界的規模の機器間通信 (M2M) を実現可能とするための技術仕様の開発に取り組んでおり、日本からは ARIB、TTC が参加している。SC 会合ではその運営に関する議論を行っている。SC 会合は電子会議を基本としているが、今回は、主に 2014 年予算を審議するために昨年 7 月の第 1 回会合に続く 2 回目の face-to-face 会合として開催された。

5 oneM2M SC の構成

(敬称略)

グループ名	担当項目	議 長
SC (Steering Committee)	oneM2M 全体	L. J. Romero (ETSI) 副議長：C. Blum (TIA)、 D. Foote (Hitachi-ATIS)、 T. Li (Huawei-CCSA)
Sub Committees		
FC (Finance Committee)	財務関連	K. Matsuo (TTC)
MARCOM (Marketing & Communications)	広報関連	R. Brennan (Telxsis)
LG (Legal Group)	法務関連	T. Goode (ATIS)
M & P (Methods & Procedures)	作業手順関連	共同議長：E. Scaronne (Telecom Italia)、L. Laporte (Sprint)

6 主要結果：

- ・ 2014 年の予算について、Finance Committee (FC) より提案された予算案とほぼ同額の、総額\$645k で合意した。現在の登録メンバー数を用いて試算すると、ARIB の負担額は\$33k となる。今後も、なるべく小さな予算でプロジェクトを運営していくことが、共通認識として確認された。
- ・ SC 会合の開催について、SC 会合は Web による電子会議を基本としているが、SC 議長から、今後も年 1 回の予算案審議は face-to-face で開催することが提案され、合意された。
- ・ oneM2M 1 周年記念プレスリリースについて、Marketing & Communications (MARCOM) 議長から、議長が文案を調整し各 HoD (パートナー代表) にも周知する旨の提案があり、了承された。

7 今後の会合スケジュール：

電子会議がほぼ毎月一回開催される予定である。また、次回 face-to-face 会合は、2014 年 6 月の Technical Plenary 会合（中国）のタイミングに合わせて開催される見込みである。

APT 無線グループ 第 15 回会合（AWG-15）の概要

APT 無線グループ第 15 回会合（AWG-15）が開催されました。

1 日 程： 2013 年 8 月 27 日（火）～30 日（金）

2 場 所： タイ バンコク

3 出席者：

22 ヶ国、約 200 名が参加（日本は、総務省電波環境課 菅田企画官を団長に 40 名が参加。ARIB からは佐藤常務理事他 3 名が参加。）

4 会合の目的：

AWG は、アジア・太平洋地域における IMT-Advanced 等無線システムの高度化及び普及促進に向けた検討・情報交換を行うことを目的としている。

5 会合構成：

AWG Plenary	
議長： Mr. L. Sun (Huawei/中国)	副議長： 佐藤 (ARIB), Ms C. Perera (GSMA)
WG Spectrum Aspects (WG SPEC)	: Mr. J. Lewis (AVA/ニュージールランド)
SWG-SA&H “周波数アレンジメント&協調”	: Ms K. Zhu (MIIT/中国)
SWG-SM “電波監視”	: Mr. Z. Liu (MIIT/中国)
TG-SSIMT “IMT システムに関する共用検討(デジタルテレビジョン含む)”	: Ms J. Welch (クアルコム/香港)
TG-PPDR “緊急・災害支援関連”	: Mr. B. Bhatia (モトローラ/インド)
TG-BWA “BWA”	: Dr. E. Lim (サムスン/韓国)
TG-FSS “10-15GHz における固定衛星周波数”	: Ms. T.L.Lee (マレーシア)
⇒ 次回から、Mr. J.S. Woo (サムスン/韓国) に交代	
WG Technology Aspects (WG TECH)	: Ms J. Song (サムスン/韓国)
⇒ AWG 副議長の佐藤 (ARIB) が代行	
TG-CRS&SDR “ソフトウェア・コグニティブ無線”	: Dr. B. Lang (CATR/中国)
TG-IMT “IMT のサービス・技術”	: 新 (NTTドコモ)
TG-ITS “ITS 関連”	: 小山 (ARIB)
TG-SRD “SRD”	: 有吉 (ATR)
TG-WPT “無線電力伝送”	: Mr. C.H.Chung (RAPA/韓国)
Ad-Hoc Group “固定無線システム”	: 川西 (NICT)
⇒ 次回から TG-FWS (議長：川西) として活動	
WG Service and Applications Aspects (WG S&A)	: Dr. A. Qiantori (PT テレコムインドネシア)
TG-FMC “固定と移動の融合”	: Mr. F.X.A. Wibowo (PT テレコムインドネシア)
TG-RC “無線通信関連の融合”	: Dr. A. Qiantori (PT テレコムインドネシア)
TG-MSA “新たな衛星アプリケーション”	: Ms G.R.Vincent (Measat Satellite System/マレーシア)
TG-A&M “航空・船舶関連”	: Mr. J. Ding (MIIT/中国)

6 主要結果：

- ・ 日本からの提案に基づいて、固定無線システムに関する新しい TG の設置を承認し、TG 議長に NICT の川西氏を選出した。
- ・ 広帯域 PPDR (Public Protection and Disaster Relief : 公共保安及び災害救援) の技術的要求条件に関する新レポートを完成・承認した。
- ・ M2M (Machine to Machine) 通信の応用と開発に関する新レポートを完成・承認した。
- ・ FMC (Fixed Mobile Convergence) に関する調査レポート及び FMC サービスに関する新レポートを完成・承認した。
- ・ WRC-15 議題 1.1 (IMT 用追加周波数の特定) に関して、APT 地域での所要周波数帯推定に関する作業を完了した。
- ・ WRC-15 議題 1.1、議題 1.12 (8700-9300MHz 及び/または 9900-10500MHz 帯の地球探査衛星業務 (能動) への周波数分配) 及び議題 1.17 (航空機内データ通信の導入) に関連して、APT 地域での周波数利用状況等を把握するための質問票を作成・発出することにした。
- ・ WRC-15 議題 1.2 (698-806MHz 帯の移動業務への周波数分配) 及び 1.3 (広帯域 PPDR) に関する AWG での検討状況を外部関連機関に伝えるリエゾン文書を作成・発出することにした。
- ・ 新しい研究テーマ (IMT 無線アクセスネットワークの同期技術、道路センサーネットワーク、等) の立ち上げに向けて質問票を作成・発出することになった。
- ・ 新たな衛星アプリケーションを扱う TG において、統合/ハイブリッド MSS (Mobile Satellite Service) システムに関するミニワークショップを開催した。

7 次回会合のスケジュール：

次回 AWG-16 会合は、来年 3 月 18 日～21 日に開催することがアナウンスされた (場所：開催ホストが見つからなければタイ)。

日中韓情報通信標準化会議 第 36 回 IMT WG 会合の概要

日中韓情報通信標準化会議 (CJK) 第 36 回 IMT WG 会合が開催されました。

1 日 程： 2013 年 9 月 2 日 (月) ～3 日 (火)

2 場 所： 韓国 水原

3 出席者：

各標準化機関のメンバーとして、ARIB から 7 名、CCSA (中国) から 6 名、TTA (韓国) から 21 名が参加。

4 会合の目的：

CJK IMT WG 会合は、ITU-R、APT、3GPPs 等における IMT 国際標準化に対する 3 ヶ国標準化機関の取り組み等に関する情報・意見交換を行うことを目的としている。

5 主要結果：

- ・ 第 16 回 WP5D 会合、第 3 回 JTG 4-5-6-7 会合、第 15 回 AWG 会合における IMT に関連する結果に関して確認を行った。
- ・ 前回会合で設立した 3 つの SIG (Special Interest Group) に関する今後の活動の進め方について議論した。
- ・ WP5D で作成が進められている 2020 年及びそれ以降の IMT Vision 勧告草案並びに IMT の将来技術トレンド報告草案に関して、内容、検討作業に重複が見られるため、これを整理する内容の 3 国共同寄書の提出を検討することとした。
- ・ IMT Vision 勧告草案に関する High Level な内容及び将来技術トレンド報告草案に記載する技術内容に関し、引き続き意見交換を行い、第 17 回 WP5D 会合へ向けた共同寄書提出の可能性について検討することとした。

6 次回会合のスケジュール：

次回 CJK IMT WG 会合は、来年 1 月 15 日～16 日に中国にて開催する予定である。

今週の ARIB 内会議スケジュール (9 月 9 日～9 月 13 日)

- 9 月 11 日 (水) : 第 198 回業務委員会
9 月 12 日 (木) : 電波懇談会 第 13 回メーカー社長会
9 月 12 日 (木) : 第 41 回 DiBEG 作業班

編集後記

今回が二度目の編集となります。読者の皆様にとって興味深く読みやすいニュースになるよう努めて参りたいと思います。どうか、よろしくお願い致します。猛暑と豪雨に、最近では竜巻まで加わり激しい夏の日々が続いています。9 月に入り、自宅周辺を散歩する際など、ツクツクホーシの鳴声やちょっとした冷風に秋の気配も感じられるようになりました。

あと一息、皆様、ご自愛下さい。

(S.T.)

ARIB

Association of Radio Industries and Businesses

ARIB NEWS
発行所

一般社団法人 電波産業会

〒100-0013 東京都千代田区霞が関 1-4-1 日土地ビル11F
TEL 03-5510-8590 FAX 03-3592-1103
<http://www.arib.or.jp> E-mail arib_news@arib.or.jp